

(題名) 小学校1年生と高校生への喫煙防止教育と、喫煙に対する意識調査

姫路薬剤師会 こども未来の会 杉本 香織 金沢 久美子

【目的】 姫路薬剤師会の有志グループ「こども未来の会」では高校生以下の未成年対象に、年齢に応じた分かりやすいツールを使い喫煙防止教育を行ってきた。今回われわれは授業を通じて児童がどのようなメッセージを受け止めているかなど意識調査を行ったので報告する。

【方法】 平成17年中に、小学校1年生56名、男子学生が主なA工業高校294名、普通科B高校2年生261名に喫煙防止教室を行った。小学校1年生に対しては、授業の直前・直後、1ヶ月後の計3回、高校については直後1回のアンケートを実施した。どちらも無記名自記式とした。

【結果】 小学校1年生では直前アンケートでは「たばこを吸ってみたいと思いますか？」の問いかけに 家族にたばこを吸う人がいると答えた33名のグループは、4名・12%が吸ってみたいと答えた。家族にたばこを吸う人がいないと答えた23名のグループは、吸いたいと答えた人はゼロ人だった。禁煙防止授業直後のアンケートでは「吸ってみたい」はゼロ人となった。しかし1ヶ月後のアンケートでは、「大きくなったらたばこを吸うと思いますか？」の問いには、「吸うと思う」が2名・3% 「分からない」が8名・14%だった。

高校2校については、男女比が異なるため、多少の喫煙に関する意識の差があったものの、両校ともたばこを吸い始めた年齢は、小学生20%・19%、中学生54%・60%だった。

【結語】 小学校の調査から繰り返したばこの害を伝えていくことの重要性が示唆された。さらに高校生の調査から小学校のうちに「たばこの害」について伝える「最初の1本を口にしない」教育の重要性が示唆された。